



NPO PTPL “ともいき” 便り No.105

平成 28 年 (2016 年) 8 月 7 日発行

■立秋 8月7日から8月22日までの節気

今年はセミの鳴き声が少ないような気がします、みなさまのお住まいのところは、いかがでしょうか。7月末の夜、近所の遊歩道を犬と散歩していたら、木の幹をのぼっているセミを見つけました。少し迷ったのですが、家に連れて帰り、カーテンにとまらせて羽化を観察することにしました。真っ白な羽根が小さな殻からあらわれて、ゆっくりと外に出たと思ったら、あっというまに茶色くなりました。あぶらゼミでした。3歳のあつくんをよんで、見せてあげたら、「こわい!」といって近づこうとしません。せみの抜け殻にも触れませんでした。我が家で誕生したあぶらゼミは、翌朝、木の幹にとまらせてあげたら、ぱあっと元気よく飛んでいきました。鳴かなかったから、メスだったのかも知れません。節気は「立秋」にはいり、そろそろ、つくつく法師が鳴き始めるころでしょうか。

それにしても、まだ暑いのに、「秋」なんてと思われる方も多いと思いますが、そこには‘暑さが頂点に達すれば、あとは涼しい秋の気配がしてくる’という季節のとらえ方があります。「極まれば兆す」という日本人独特の季節感です。(ともいき暦 <http://www.tomoiki.ptpl.or.jp/calendar/2016/>)

月遅れのお盆を故郷ですごされる方もいらっしゃると思います。今年は義母の新盆です。99歳で沈丁花の香るころに天国に旅立ちました。凜としていて、おおらかな心をもったすてきな女性でした。楽しいこと、そして家族が集まることがなによりも好きな人でしたから、孫、ひ孫が一堂に会し、にぎやかに義母を偲びながらの新盆になると思います。

旧暦で暮らしていたころのお盆、つまり旧暦の7月15日は、新暦では今年8月17日です。そして翌日の18日が満月です。照明のなかった時代、人々は満月の明るい光のなかで、盆踊りを踊り、「私たち、元気で仲良く暮らしていますから、心配しないでください」というメッセージをご先祖さまにおくった

のでしょう。

先日、横浜でシオカラトンボを見ました。シオカラは、「塩辛」と書くのですね。「甘辛蜻蛉」もいたら面白いのにと、友人にいったら、団子じゃないと言われました。シオカラトンボのメスは、体の色からムギワラトンボと呼ばれるそうです。さらにシオカラトンボの目の色は水色で、童謡「とんぼのめがね」（作詞：額賀誠志）のモデルになったそうです。

♪とんぼのめがねは みずいろめがね あおいおそらを とんだから とんだから♪

赤とんぼも、飛び始めているのでしょうか。

みなさんも、ぜひ、小さな秋をさがしてみてください。

おしまいに、一句。

「町中や列を正して赤とんぼ 一茶」

立秋の季節、健やかに過ごしてください。

すとう あさえ (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事)

■ともいき・ともうみ・ともさち、そして和み 雑感彼是

◎立秋とは。

夏の土用（7月19日（火）～8月6日（土））の18日間、一年中で最も暑い時期ですが、土用も半ばを過ぎると夜はもう秋かと思わせる涼しい風が吹くことがあります。これを「夜の秋」といいます。まだ夏なのだけれども夜は秋の気配が漂うことを言うのです。

8月7日（日）は立秋。立秋といっても日中は真夏のように暑い、しかしその暑さの奥にかすかな秋の萌しを見つけ出す日本人は季節にとっても敏感です。

暑い盛りに、いち早く夏の終わりを感じ取り、秋の萌しを見つけ出す。このような季節の移ろいを「見つけ出す」という想像力こそ日本人の繊細な季節感を培ってきた力なのでしょう。

立秋を過ぎると、あたりを見わたすと風の音ばかりでなく、秋の気配はあちらこちらに見受けられます。

立秋を境にして夏の暑さは秋の「残暑」に、夏の涼しさは秋の「新涼」に改まります。

「極めれば終わる」「極めれば萌す」は日本人の鋭敏な季節感です。

◎不安感が漂う今の世界。

テロに紛争に殺人事件、家庭内から国家間に至るまで、あらゆる暴力が、今の世界には満ち溢れています。

日本の本質「ともいき」「ともうみ」「ともさち」「和み」(ジャパネスク)を思う時、欧米近代、アジア近代を越えた未来への可能性を強く感じ、これこそ今の世界、これからの世界に必要な欠くべからざる普遍性を持つ価値観ではないかと私には思えるのです。

そして、地球市民すべてが願う「ともさち社会」への基本となる価値観であろうと考えます。

戦後民主主義のもとで「日本人である」ということから、余りにもかけ離れてしまった昨今の日本人の存在が残念に、もったいなく感じられます。



勝田 祥三 (NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 理事長)

■事務局だより

●セミの鑑賞・観察

本編でもセミの話が出ましたが、当 NPO の勝田理事長が自宅に植わっているグレープフルーツの木に連年の 5 倍近くのセミの抜け殻を見つけた話やジャカラランダの幹にとまっているミンミン蝉の鑑賞・観察の話がフェイスブック「ともいきぐらし」で紹介しています。

こちらも是非ご覧ください。

フェイスブック「ともいきぐらし」<https://www.facebook.com/tomoikigurashi/>

●NPO PTPL が展開している 3 つのフェイスブックをぜひ、ご覧ください。そして、「いいね」ボタンを押してください。また、文章に対するコメントもご遠慮なくお書き下さい。

「ともいきぐらし」：<https://www.facebook.com/tomoikigurashi>

「おらが富士 計画 ふるさと富士山探し」：
<https://www.facebook.com/oragafuji/>

「不思議・驚き・魅力のジャパネスク」：
<https://www.facebook.com/japanesque.tokyo/>

●会員募集のご案内

NPO 活動を推進していくためには、多くの皆さま方のご支援・ご協力が不可欠です。

NPO PTPL では、常時、個人会員と法人会員を募集しています。この便りをお読みの方で、ご本人またはお知り合いの方々にご案内いただければ幸いです。詳しくは下記まで、メールまたはお電話・FAX にてお尋ねください。

NPO PLANT A TREE PLANT LOVE 事務局 担当：佐藤

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-18 虎ノ門興業ビル 7 階

電話：03-6205-7503 FAX：03-6205-7504

Email：info@ptpl.or.jp